

デザイン工学研究科

I 2020年度大学評価委員会の評価結果への対応

【2020年度大学評価結果総評】(参考)

デザイン工学研究科では、各教員が最前線の情報を修得しながら教材開発と先端的研究課題の設定に努め、専門科目の高度化対応として各専攻にスタジオ科目やプロジェクト科目を配当し、また外部審査員の下で学習成果の検証が行われており、教育課程の質の向上への取り組みが評価できる。

教員と教員組織に関して、FDに資する学内外の様々な研修会・講演会・ワークショップに教員を派遣するとともに、研究科あるいは専攻の会議体で活動報告がなされており、資質向上への取り組みが評価できる。

2019年度認証評価結果における指摘事項に対して改善計画が示され、速やかな計画の実施が強く望まれる。

2020年度の年度目標・達成指標、および重点目標については具体性に欠けるものがあり、改善が望まれる。

海外研修プログラムにおいて、最小催行人数を満たさずに実施を見送ったものがあり、費用面での学生サポートが望まれる。一方、新型コロナウイルス感染症の影響で国際的な研究活動が制約を受ける中で、状況に柔軟に対応しながら学生に質の高いプログラムが提供されることを期待する。また、継続して各専攻における具体的なロールモデルの作成検討も行っていたきたい。

貴研究科の今後の展開を期待したい。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

・2019年度認証評価結果における指摘事項の「教育目標のデザイン工学研究科の各専攻における『修士課程』と『博士後期課程』を区分して記述し、学則を改訂する。」という指摘については、すでに2020年度中にすべてにおいて対応し改善した。

・「2020年度の年度目標・達成指標、および重点目標については具体性に欠けるものがあり、改善が望まれる。」の指摘については、今回の提出で具体的になるよう改善した。

・「海外研修プログラムにおいて、最小催行人数を満たさずに実施を見送ったものがあり、費用面での学生サポートが望まれる。新型コロナウイルス感染症の影響で国際的な研究活動が制約を受ける中で、状況に柔軟に対応しながら学生に質の高いプログラムが提供されることを期待する。」に関しては、広く国際的なプログラムに取り組めるよう教育内容を修正した。費用面については継続して検討が必要なことを研究科内で確認した。

・「継続して各専攻における具体的なロールモデルの作成検討も行っていただきたい。」の要望については、大学院生が将来にわたるキャリアプランを思い描きながら研究をするためのコースワークとリサーチワークを適切に組み合わせ、カリキュラムポリシーやカリキュラムツリーを提示し対応したが、より具体的な職種に対してのプロセスを今後も検討する。

【根拠資料】

・デ工研究科履修ガイド 教育目標、海外研修プログラム、カリキュラムポリシー、カリキュラムツリー (添付ファイル)

・大学の教育目標 大学ホームページ

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/mokuhyo/daigaku_in/#14

・海外研修プログラムシラバス

https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?gakubueng=ES&t_mode=pc

・大学院学則 (添付ファイル)

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

デザイン工学研究科においては、「2019年度大学評価委員会の評価結果」に記された、教育目標のデザイン工学研究科

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

の各専攻の部分で「修士課程」と「博士後期課程」を区分して記述する」点について、対応がなされ、大学ホームページ「大学の教育目標」に改訂版が掲載されている。

「2020年度の年度目標・達成指標、および重点目標」について、「具体性に欠けるものがあり、改善が望まれる。」との指摘に対して、国際ワークショップの参加回数（年1回以上）、演習・実習科目の対面実施率（70%以上）、学会発表の総数（30編以上）と具体的数値が掲載された点が評価できる。

海外研修プログラムにおいて、状況に柔軟に対応しつつ質の高いプログラムを提供するために「海外研修プログラム1」を各専攻に設置するなど教育内容を修正した点は評価できるが、「費用面での学生サポート」については、奨学金や補助金の拡充について継続して検討することが望まれる。

「各専攻における具体的なロールモデルの作成検討」について、研究科HPの「コンセプト」欄に各専攻の特徴がよくまとめて掲載されており、評価できる。システムデザイン専攻のみに、主な就職先のデータが掲載されているが、他専攻も同様のデータを掲載するとより具体的なロールモデルがみえてくるのではないかと期待したい。

II 自己点検・評価

1 教育課程・教育内容

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。</p> <p>2010年度の研究科開設当初からの一貫した教育課程編成・実施基本方針として、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせ運用している。これらは、カリキュラムポリシーやカリキュラムツリー、履修案内として履修ガイドやホームページ、大学院案内、募集要項に記載され、これに基づいたコースワークとリサーチワーク・修了要件が明示されている。また、建築学専攻では日本技術者教育認定機構（JABEE）より、学士課程と修士課程の2つの教育プログラムの同時認定を取得している。この認定により、UNESCO-UIA（国際建築家連合）提唱の建築教育憲章に基づく国際的な教育プログラムとの同等性が保証されている。</p> <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> デザイン工学研究科 URL : http://www.design.hosei.ac.jp/gs/concept/policy.html (2021年5月確認) 法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド 大学院案内 (デザイン工学研究科) 	
②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>【根拠資料】 ※「はい」を選択した場合に単位化及び修了要件として設定されていることが確認できる資料を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> デザイン工学研究科 URL : http://www.design.hosei.ac.jp/gs/concept/policy.html (2021年5月確認) 法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド 大学院案内 (デザイン工学研究科) 	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。</p> <p>必修科目としてプロジェクト科目、選択科目として専門科目がそれぞれ配当され、コースワークとリサーチワークの適</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

切な組み合わせによる教育が行われている。また、博士學位論文の審査と最終試験の合格を修了要件として設定している。これによって、リサーチワークで進める研究分野の知識だけではなく、広い分野にわたる高度な学識と総合デザイン能力を備えた人材を育成する教育プログラムとなっている。さらに、システムデザイン専攻では専門科目のうち First major に加えて Second major として他分野の専門科目も履修することを修了要件としている。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学研究科 URL : <http://www.design.hosei.ac.jp/gs/concept/policy.html> (2021年5月確認)
- ・法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド
- ・大学院案内 (デザイン工学研究科)

④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。

S A B

※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

【修士】

- ・本研究科に関わる専門分野における学術進化・技術革新は著しく、各教員は最前線の情報を修得しながら教材開発と先端的研究課題の設定に努めている。専門科目の高度化に対応するため、各専攻にはスタジオ科目やプロジェクト科目が配当されている。
- ・本研究科修了生が、激動する自然・社会環境に順応しながら総合デザイン能力を発揮し社会に貢献できるように、教育研究内容を随時更新しながら学術・技術を教授し、総合デザイン力を修得した高度な専門職業人を育成している。
- ・研究科の学生が作品の制作実習をより効果的に行うため、学部と連携して、3Dプリンタやレーザーカッターなどのものづくり環境の整備を行うとともに、造形製作室やデジファブセンターの整備を行った。

【博士】

本研究科に関わる専門分野における学術進化・技術革新は著しく、各教員は最前線の情報を修得しながら教材開発と先端的研究課題の設定に努めている。専門科目の高度化に対応するため、各専攻には専門科目とプロジェクト科目を適切に組み合わせて配当している。本研究科修了生が総合デザイン能力を発揮し社会に貢献できるように、高度な総合デザイン力に基づく企画開発能力を備えた教育者、研究者、指導者など専門特化型人材を育成する仕組みとなっている。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学研究科 URL : <http://www.design.hosei.ac.jp/gs/concept/policy.html> (2021年5月確認)
- ・法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド
- ・大学院案内 (デザイン工学研究科)

⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。

S A B

※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。

【修士】

- ・2021年度より、「海外研修プログラム1」を各専攻に新たに設置し、海外あるいは国内で開催される国際ワークショップに参加して、異なる社会環境や風土、価値観をもつグループの中で、英語によるディスカッションをベースに課題を解決するデザイン能力を養う取り組みを開始した。
- ・システムデザイン専攻では、2016年度より南フィリピン大学において個人レッスン90時間・グループレッスン60時間に及ぶ「技術英語演習」(C期・50日間)を2019年度実施した。ただし、COVID-19の影響により2020年度は中止となり、2021年度も中止が決定した。2022年度以降については、オンラインによる実施や代替プログラムの可否について検討を行う。
- ・全学が運用するグローバル化推進の諸制度(留学、海外活動などへの助成制度)への応募を学生に奨励している。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・学生の国際会議での発表や海外調査活動を奨励しており、2020年度は新型コロナウイルスの影響で国際会議の多くが中止もしくは次年度以降に延期となったが、現時点では本年度も同様の状況が続くと予想されるもののオンラインで開催される国際学会に積極的に参加するよう呼び掛けている。

【博士】

博士課程学生にとって、国際会議での発表や海外での調査活動はグローバルに活躍する研究者として必須であり、積極的な発表を奨励している。2020年度は新型コロナウイルスの影響で国際会議の多くが中止もしくは次年度以降に延期となったが、現時点では本年度も同様の状況が続くと予想されるもののオンラインで開催される国際学会に積極的に参加するよう呼び掛けている。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・デザイン工学研究科教授会資料

1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S A B

※履修指導の体制及び方法を記入。

【修士】

・4月にガイダンスを実施しているが、今年度は新型コロナウイルスの影響で対面とオンラインによるハイフレックスとして実施した。

・外国人留学生に対して、チューター制度を利用して指導教員とチューターが履修上の助言を与えている。

・教員は、研究指導のみならず学生の履修上の相談にも随時応じている。

・建築学専攻においては、国際的な建築教育（5年間の建築教育）を満たすことを保証する JABEE 認定建築系学士修士課程プログラムの対象者（スタジオ系志望者および JABEE 認定プログラム履修志望者）全員に対して複数教員の個人面談により研究・履修計画を指導している。

【博士】

・4月にガイダンスを実施しているが、今年度は新型コロナウイルスの影響で対面とオンラインによるハイフレックスとして実施した。

・外国人留学生に対して、チューター制度を利用して指導教員とチューターが履修上の助言を与えている。

・教員は、研究指導のみならず学生の履修上の相談にも随時応じている。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド
・デザイン工学研究科教授会資料

②研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。

はい いいえ

※ここでいう「研究指導計画」とは、事務手続きのスケジュールやシラバス等の個別教員の指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導体制及び研究指導スケジュールをまとめたものを指します（学位取得までのロードマップの明示等）。また、「あらかじめ学生が知ることの状態」とは、HPや要項への掲載、ガイダンスでの配布等が考えられます。

【修士】

・履修ガイドに履修登録・成績通知・進級・修了発表など一連の履修手続きを示すとともに、研究指導計画、修了要件、学位論文審査基準、論文作成要領などを記載し、年度初め4月のガイダンスに際し学生に配布指導している。指導については、各指導教員が実施する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> 各専攻では、4月のガイダンス時に論文審査スケジュールを配布・掲示するとともに、指導教員から学生へ周知しているが、今年度は新型コロナウイルスの影響で対面とオンラインによるハイフレックスとして実施した。 	
【博士】 <ul style="list-style-type: none"> 履修ガイドに履修登録・成績通知・進級・修了発表など一連の履修手続きを示すとともに、研究指導計画、修了要件、学位論文審査基準、論文作成要領などを記載し、年度初め4月のガイダンスに際し学生に配布指導している。 各専攻では、4月のガイダンス時に論文審査スケジュールを配布・掲示するとともに、指導教員から学生へ周知しているが、今年度は新型コロナウイルスの影響で対面とオンラインによるハイフレックスとして実施した。 	
【根拠資料】 ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。 <ul style="list-style-type: none"> 法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド 論文審査スケジュール配布資料 	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。 【修士】 <p>履修ガイドに記載された「本研究科の各専攻会議は修士の学位申請に対し、その受理の可否を決定し審査にあたる主査と1人以上の副査を定める」のルールに従い、研究指導計画に基づく研究指導によって、学位論文の執筆指導が適切に行なわれている。また、「履修から進級および修了に至るコースワークにおいても主査と1人以上の副査の下で指導を受ける」こととなっている。</p>	
【博士】 <p>履修ガイドに記載された「本研究科の各専攻会議は博士の学位申請に対し、その受理の決定および論文審査のため、本研究科内に審査委員会を置く。審査委員長は原則として研究科長が務める。・・・(中略)・・・審査委員会における審査の結果、受理が決定した場合には、審査委員会の中に主査と2人以上の副査からなる審査小委員会を設ける。小委員会では、学問的な内容に関する審査と並んで、以下の諸点(省略)に関する試験または試問及び評価を行う」のルールに従い、研究指導計画に基づく研究指導によって、学位論文の執筆指導が適切に行なわれている。また「履修から進級および修了に至るコースワークにおいても主査と1人以上の副査の下で指導を受ける」こととなっている。</p>	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> 法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド 	
④通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果について教えてください。	
※取り組みの概要を記入。 <ul style="list-style-type: none"> 2020年度まで「海外研修プログラム1(建築学専攻科目)」では、米国・南カリフォルニア建築大学を提携校として交換プログラムを継続的に実施し、本学大学院生を派遣するとともに提携校学生を受け入れて教育研究交流を深めてきた。しかしながら、近年の履修希望者の減少に加え、2020年度は新型コロナウイルスの影響でプログラムを中止した。そこで、2021年度より、そうした不安定な状況にあっても大学院教育のグローバル化を推進するため、「海外研修プログラム1」を各専攻に新たに設置し、海外あるいは国内で開催される国際ワークショップに参加して、異なる社会環境や風土、価値観をもつグループの中で、英語によるディスカッションをベースとして課題を解決するデザイン能力を養う取り組みを開始し、大学院生に履修の機会が多くなるよう教育内容の工夫を講じた。 建築学専攻では、あらかじめ修士設計の中間審査としてオンラインによるバーティカルレビューを実施し、また2021年2月の修士論文・修士設計の審査会、さらには同3月の大江賞審査会(優秀修士設計選考会)を対面とオンラインによるハイフレックスでおこなって、その過程を広く公開しながら、相互の作品を評価しあう環境を作り上げ、教育方法と成績評価に新たな可能性を切り開いた。 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

- ・建築学専攻では、AB 期はすべてのデザインスタジオ（設計演習科目）がオンライン授業で実施したため、横断的な学習成果の共有と教員・学生による活発な議論の場として、学部から院生まで全学年が参加するオンライン上の作品展示・講評会「デザインスタジオバーティカルレビュー」を実施した。
- ・建築学専攻では、デザインスタジオ連絡会議を 8 月と翌年 2 月に開催し、オンライン授業の情報共有と振り返りをおこなった。
- ・都市デザイン工学専攻では、中間審査を各系または研究室単位で実施した。また、修士論文審査会は数人の発表者のみを対面で審査し、他の学生はリモート参加させることで密な状態とならないようにした。
- ・システムデザイン専攻では、修士研究中間審査会ならびに修士研究審査会をオンライン発表・審査に変更し安心、安全に配慮した教育活動を実現した。
- ・Zoom や学習支援システム、Google Classroom、YouTube、Miro 等を活用し、アクティブラーニング系講義も含め、多くの授業のオンライン化・オンデマンド化を行った。
- ・情報教室にインストールされているソフトウェアを利用する授業をオンラインでも実施できるよう、フローティングライセンスを追加購入し、学生が自宅からでも VPN 接続してソフトウェアを利用できるよう整備した。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ Web シラバス
- ・ 建築学科・建築学専攻ホームページ： <https://www.design.hosei.ac.jp/archi/>

1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。

S A B

※成績評価と単位認定の確認体制及び方法を記入。

【修士】

- ・ Web シラバスには、成績評価の方法と基準が明記され、成績評価の公平性を確保している。
- ・ 成績評価に関する問い合わせがあった場合には、担当教員が事務室と連携しながら適切に対応している。
- ・ 授業外学習の状況は、教員ごとに様々な方法で確認している。課題作品、課題レポート、演習問題、輪講の担当割り当てなどにより、授業外学習の実態が正確に把握され、その評価は単位認定に反映されている。
- ・ 建築学専攻では、成績評価に関する根拠資料として、全科目の成績評価と単位認定に関する資料を IAE サーバーに記録・保管している。
- ・ 学生が留学して留学先機関の授業を受講する場合には、本研究科と留学先機関のシラバスを比較し、専攻主任が単位読み替え原案を作成して専攻会議で審議の上、単位認定の是非を判断している。

【博士】

- ・ Web シラバスには、成績評価の方法と基準が明記され、成績評価の公平性を確保している。
- ・ 成績評価に関する問い合わせがあった場合には、担当教員が事務室と連携しながら適切に対応している。
- ・ 授業外学習の状況は、教員ごとに様々な方法で確認している。課題作品、課題レポート、演習問題、輪講の担当割り当てなどにより、授業外学習の実態が正確に把握され、その評価は単位認定に反映されている。

【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ Web シラバス

②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。

はい いいえ

※学位論文審査基準の名称及び明示方法を記入。

【修士】

学位論文審査基準を履修ガイドに明記し、4 月のガイダンスの際に専攻主任から学生に説明・周知している。また、各指導教員から学生に具体的な説明を行っている。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【博士】	
学位論文審査基準を履修ガイドに明記し、4月のガイダンスの際に専攻主任から学生に説明・周知している。また、各指導教員から学生に具体的な説明を行っている。	
【根拠資料】 ※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。 ・法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド	
③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。 学位論文審査基準に基づき学位が授与されている。学位論文の可否は、各専攻の審査会の結果を経て、各専攻会議と研究科教授会で判定されている。学位授与状況は、各専攻会議・研究科教授会の会議資料として整理され、紙媒体と電子データにより保管される。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・デザイン工学研究科教授会資料	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
※取り組みの概要を記入。 【修士】 ・修士学位論文に関しては、履修ガイドに記載された4項目の学位論文審査基準の充足状況を審査会で厳密に審査し、可否を各専攻会議で審議して判定している。 ・学位の水準を保つため、学生へ各学会等での研究発表を奨励するとともに、優れた業績に対して 学生に授与される学術賞は教授会に報告され、学生の研究水準を教授会で確認している。	
【博士】 ・博士学位論文に関しては、当該学生の成果が学術論文に第一著者として1編以上（課程博士）ある いは2編以上（論文博士）が原著論文として掲載（決定）済みであることが要求される。なお、学 術論文誌と同等の水準を有する単著の学術図書であれば原著論文に読み替えることができる。こ れらの基準の取り扱いは、履修ガイドに明記され、この基準を満たさない場合には不合格と判定 する。 ・学位の水準を保つため、学生へ各学会等での研究発表を奨励するとともに、優れた業績に対して 学生に授与される学術賞は教授会に報告され、学生の研究水準を教授会で確認している。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
※責任体制及び手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。 【修士】 ・本研究科の各専攻会議は、修士の学位申請に対し、その受理の是非を法政大学学位規則に照らして決定し、審査にあたる主査と1人以上の副査を定めている。 ・主査・副査は、研究指導を通して提出された論文が学位に値するか否かを判断し、可の場合には審査会での審査に付す。 ・審査会では、主査・副査を含む全教員が法政大学学位規則と本研究科が定める学位論文審査基準に照らして修士論文を審査し、専攻会議により可否判定案を審議決定する。 ・研究科教授会は、専攻会議から提案される可否判定案を審議し、合格と判定された場合に当該学生へ修士の学位が授与される。 ・これらの手続きと責任体制は、履修ガイドに明記されている。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【博士】	
学位規則の通り	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・法政大学学位規則 ・法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド	
⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。 ・各専攻では、就職担当教員を中心にキャリアセンターの協力を得ながら大学院生の就職や進学状況を指導・把握・管理し、修了生に関しては同窓会組織との情報共有に努めている。 ・各専攻の研究室単位でも学生の就職や進学情報を収集し、各専攻が集約・管理している。 ・就職や進学状況の情報は、電子データとして保管され、個人情報厳格に管理されている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各専攻会議資料	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。 【修士】 ・学習成果を測定するために GPA を導入している。これは、履修した科目の成績評価に基づいたものであり、各分野の特性に応じているといえる。 ・建築学専攻では、修士論文・修士設計の中間発表を行い、修士論文・修士設計の課題設定が適切であるかを確認している。都市環境デザイン工学専攻では、原則 C 期（10～11 月）に研究室または系単位での中間発表を行い、修士論文の課題設定や進捗状況が適切であるか確認している。システムデザイン専攻では、修士課程 2 年の 9 月初旬に修士論文の中間審査を行い、修士論文への学生の取り組み状況が適切であるか確認している。	
【博士】 ・学習成果を測定するために GPA を導入している。 ・博士課程学生の成果は、学術論文等への原著論文で確認している。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 特になし	
②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。 【修士】 ・本研究科では、成績評価に基づいて GPA を算出し、学生の学習成果を的確に把握・管理している。 ・GPA を基準にして、成績優秀者表彰や就職先への学校推薦対象者を選考している。 ・各専攻における学習成果とその評価は、専攻主任会議において随時共有され、適正な評価となるように分析している。 ・建築学専攻では、優秀修士設計選考会（大江宏賞公開講評審査会）において外部審査員の参加のもとに学習成果を評価している。JABEE では教育に対する社会の要求をどのように把握しているかが求められ、外部審査員によって数年ご	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

との評価を得る。それに対し、本選考会は建築実務家の OB ならびに外部の著名な建築家が審査に参加し評価する方法を取り入れている。

- ・都市環境デザイン工学専攻では、修士論文審査会における評価結果に基づいて最優秀論文賞・優秀論文賞を各一編選考し表彰している。
- ・システムデザイン専攻では、プロジェクト科目で制作した作品を学外コンペに応募し、作品の創造性や完成度等が外部審査員から評価されている。また、展示会などに積極的に参加し、研究成果や作品の展示を行っている。

【博士】

- ・本研究科では、成績評価に基づいて GPA を算出し、学生の学習成果を的確に把握・管理している。
- ・各専攻における学習成果とその評価は、専攻主任会議において随時共有され、適正な評価となるように分析している。
- ・研究成果は、学術論文等への原著論文に対するピアレビュー方式やコンペへの作品に対する審査員により評価されている。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各専攻会議資料
- ・各専攻 HP

1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

【修士】

- ・各専攻では、学習成果の定期的検証とそれに基づく教育課程の内容・教育方法の改善・向上を図っている。研究科教授会の承認を要する事項に関しては、教授会に諮り、学務部所掌の事項に関しては研究科事務との連携によって改善・向上を図っている。
- ・修士論文の審査は、専攻教員全員の参加によって実施され、学習成果を検証するとともに、教育課程の内容・方法の改善・向上に取り組んでいる。
- ・建築学専攻は、建築学科と合同でスタジオ担当の専任・兼任教員全員参加の下にデザインスタジオ連絡会議を8月と翌年2月に開催し、教育課程の検証と改善方を審議している。修士論文に加えて修士設計も全専任教員が審査するとともに、大江宏賞公開講評審査会（優秀修士設計選考会）では、外部審査員の参加の下に学習成果を検証している。専攻会議では随時、教育成果の検証と改善に関する意見交換を行っている。
- ・都市環境デザイン工学専攻では、指導教員別あるいは系単位で実施される研究室ゼミにおいて学習成果を随時点検している。学部と合同で実施する講師懇談会（年1回開催・2020年度はCOVID-19のため未実施）および拡大教室会議（年1回開催）には、専任・兼任教員が参加し、学習成果の検証方法、教育課程の改善・向上方策に関して意見交換・情報共有を図っている。専攻会議では、随時、教育成果の検証と改善に関する意見交換を行っている。
- ・システムデザイン専攻では、学部と合同で実施する講師懇談会（年1回開催）に専任・兼任教員が参加し、学習成果の検証方法、教育課程の改善・向上方策に関して意見交換・情報共有を図っている。専攻会議では、随時教育成果の検証と改善に関する意見交換を教員間で行い、授業内容や授業方法の見直しの機会としている。

【博士】

- ・各専攻では、学習成果の定期的検証とそれに基づく教育課程の内容・教育方法の改善・向上を図っている。研究科教授会の承認を要する事項に関しては、教授会に諮り、学務部所掌の事項に関しては研究科事務との連携によって改善・向上を図っている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>・博士學位論文の審査は、主査・副査を含む専攻の教員の参加によって実施され、学習成果を検証するとともに教育課程の内容・方法の改善・向上に取り組んでいる。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
<p>特になし</p>	
<p>②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。</p>	<p>S A B</p>
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>授業改善アンケート結果は、各専攻会議で整理・分析され、教授会にて報告・確認されている。各教員は、Web シラバスに前年度のアンケート結果に対する改善策を記入することが義務化され、Web 上に公開し恒常的な教育改善を図っている。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
<p>・Web シラバス</p>	

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<p>・研究科の学生が作品の制作実習をより効果的に行うため、学部と連携して、3D プリンタやレーザーカッターなどのものづくり環境の整備を行うとともに、造形製作室やデジファブセンターの整備を行っている。</p>	<p>1.1 ⑤</p>
<p>・大学院のグローバル化を推進するため、従来の建築学専攻のみの海外研修プログラム1を他専攻にも設置し、加えてコロナ禍などの不安定な状況に対処するために教育内容を修正して、広く国際的なプログラムに取り組むことができるよう変更した。</p>	<p>1.2 ④</p>

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<p>・大学院のグローバル化を推進するため、海外研修プログラム1及び2を準備するとともに、学生の国際会議への参加や発表を奨励している。しかしながら、プログラム実施に必要な費用が学生に大きな負担となっており、費用面で参加を見合わせる学生が多く、中止や不参加となるケースも少なくない。そのため、今後も継続して奨学金の拡充、大学院学会等発表補助金の拡充を検討していく必要がある。</p>	<p>1.1 ⑤</p>
<p>・コロナ禍の影響が及ぶ2019年度以前は、大学院生が国内外の学会で積極的に発表しており、毎年度デザイン工学研究科に割り当てられる大学院学会等発表補助金だけでは、その経費の半分か補助できていない。今後、大学院生数に応じた補助金の分配を大学に求めていく必要がある。</p>	<p>1.2 ④</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【この基準の大学評価】

デザイン工学研究科では、1.1④について、作品の製作実習をより効果的に行うため、学部と連携して、3Dプリンターやレーザーカッターなどのものづくり環境の整備を行うとともに、造形製作室やデジファブセンターの整備を行ったことは評価できる。今後、これらの環境整備をおこなったことで、どのように教育内容が専門化されたのか、検証が望まれる。

1.1⑤について、グローバル化推進のために2021年度より「海外研修プログラム1」を建築学専攻以外の各専攻にも新たに設置したことは、高く評価される。このプログラムを設置したことにより、大学院教育のグローバル化がどのように推進されたのか、具体的な検証が期待される。

いっぽう、上記プログラムの実施に必要な費用が学生の負担となっており、履修希望者が減少している可能性が前年度から指摘されており、引き続き、奨学金、補助金拡充の検討が望まれる。

1.4④について、学習成果を測定するための方策を取っている点は評価できるが、GPAをどのように利用しているのか、具体的基準を示すことが望ましい。

2 教員・教員組織

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①研究科（専攻）独自のFD活動は適切に行われていますか。

S A B

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

- ・FDに資する学内外の様々な研修会・講演会・ワークショップに教員を派遣し、研究科あるいは専攻の会議体で活動報告がなされるとともに教育改善に努めている。
- ・教員は、FDに資する書籍・文献を収集・学習し、各専攻会議など研究科の様々な会合において修得した知識・情報を開陳し教育改善に反映している。
- ・教員は、授業改善アンケートの結果に基づき授業改善計画を策定してWebシラバス上に公表するとともにし、次年度の授業改善に活かしている。
- ・建築学専攻では、JABEE認定建築系学士修士課程プログラムを継続・改善するための取り組みをFD活動の一環に位置付けている。具体的には、シラバスの点検・確認・改善、学習アウトカムズに関するデータ収集、成績評価方法の共有などを通して教育内容と方法を継続的に改善している。2019年度にJABEE継続審査を受審し6年間の継続認定中である。また、デザインスタジオの合同講評会や学部・専攻で合同実施するデザインスタジオ連絡会議は教育改善効果をもたらしている。
- ・都市環境デザイン工学専攻では、FD関連のシンポジウム・講演会等への参加を推奨し、FD活動報告書の提出を義務づけている。また、次のようなWGを設置し、その活動成果を専攻会議や兼任講師を交えた講師懇談会（2020年度はCOVID-19のため未実施）、拡大教室会議で報告している。教育内容WGでは、授業・カリキュラムの改善案を検討し、教室会議で提案・実施を行っている。学習・教育到達目標WGでは、育成しようとする技術者像を示し、これを実現するための学習教育到達目標を定めている。教育環境WGでは、学習・教育到達目標を達成するための教育環境の質を保持・改善するための方策を検討している。その他に、教育改善WG、広報・資料WG、卒業生連携WGを設置している。
- ・システムデザイン専攻では、教育改善を果たすための教員間の情報共有、教育手法の相互啓発に関する意見交換を重視している。全教員が分担するプロジェクト科目の教育内容に関する会議を定期的で開催し、受講学生の個性・特徴を活かした効果的アクティブラーニングの実施方法を集中的に議論している。

【2020年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・第1回自己点検評価委員会、2020年4月16日(木)、専任教員1名(都市) ・HOSEI2020 オンライン授業ニュースの各号を参照し、学内で実施されたオンライン授業講習会(「実験のオンライン授業化(2020年4月21日)」、「語学・少人数演習系科目のオンライン授業の準備事例(2020年4月22日)」など)を視聴し授業の適正化・効率化に必要な教授方法を修得し担当授業や研究室ゼミへと反映した、専任教員1名(都市) ・JABEE 審査員 Web 基礎講習(2020年度)、2020年9月1日(土)～9月10日、小金井キャンパス、専任教員1名(都市) ・教職員セミナー(オンデマンドコンテンツ)「反転授業の考え方を踏まえたオンライン授業実践事例」、10月26日(月)18:00～19:00、法政大学市ヶ谷田町校舎、専任教員1名(都市) ・教職員セミナー(オンデマンドコンテンツ)「著作権法 35 条施行に伴う留意点とオンライン授業教材制作」、2020年11月21日(土)13:00～15:00、法政大学市ヶ谷田町校舎・小金井校舎、専任教員3名(都市) ・法政科学技術フォーラムへの参加(オンライン配信)2020年11月20日(金)～12月4日(金)、専任教員1名(SD) ・レポート課題の出題方法に関する参考書確認、2021年1月6日(水)9:00～12:00、自宅、専任教員1名(都市) ・第2回自己点検委員会セミナー、2021年1月21日(木)、専任教員1名(都市) ・JABEE 建築分野審査・受審セミナー、2021年2月25日(木)13時～15時30分、建築学会(オンライン)、専任教員1名参加(建築) ・外部非常勤講師を交えた授業打ち合わせ会の実施、2021年3月2日、リモートにて実施、参加者:51名(SD)、内容:2020年度の授業実施状況の振り返りと課題の抽出・2021年度の授業実施計画の確認と課題の抽出・COVID-19における対応と対策(SD) ・Web 審査に関する意見交換会 JABEE 主催(オンデマンド)、専任教員1名参加(建築) 	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD 活動報告書 ・WG 活動報告書 	
②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人客員教員の受入れ(2017年度3名、2018年度1名、2019年度0名、2020年度1名、コロナ禍により1名来日中止、2021年度2名、コロナ禍により1名来日中止) ・在外研究の奨励と計画的執行 ・海外研修プログラムを利用したワークショップの開催 ・国内外研究集会の主催や参加 ・国内外研究者との各種学術交流 ・科研費など外部資金の応募・獲得 ・学外コンペへの応募と受賞 	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>③組織編制やFD等に関して、COVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。</p>	
<p>※取り組みの概要を記入</p> <p>特になし</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入

特になし

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・研究科内で年 10 回ほどの外部講師を招いた講演会を実施し、各教員の研究に資する活動を行うと同時に、それを教育改善につながるよう取り組んでいる。	2.1 ①

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・定年を迎える教員が断続的に発生することから、学部と連携しつつ各専攻にとってもシームレスな新任教員の補充が課題となる。 ・デザイン工学研究科設置以来、建築学専攻の院生数は専任教員 2 名の基準を満たしているが、1 名のままであり、その改善が早急に解決されるべき問題点である。 ・基盤教育委員会での将来構想について、研究科として望まれる教員についても積極的に提案していくことが求められる。 	2 の全体

【この基準の大学評価】

デザイン工学研究科は、FDに資する学内外の様々な研修会・講演会・ワークショップ等へ教員を派遣し、その成果を教育改善に活かすことが、2019 年度に引き続き行われていることは評価できる。

研究科内で年 10 回ほどの外部講師を招いた講演会を実施していることは、教員の資質向上のための方策として評価できるが、2.1②の「研究活動や社会貢献等の活性化を図るための方策」には具体的な方策を記し、デザイン工学研究科の特徴ある活動をよりアピールすることが望まれる。

3 その他の基準の COVID-19 への対応

【2021 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 その他、学生支援や学生の学習環境や教員の教育環境整備、社会貢献における COVID-19 対応・対策を行っているか。

①その他、研究科として学生支援や学生の学習環境や教員の教育研究の環境整備、社会貢献等における COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。

※取り組みの概要を記入

特になし

【根拠資料】

特になし

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【この基準の大学評価】

デザイン工学研究科では、2020年度は、感染対策を施しつつ、教育の質を落とさない工夫をして学生の教育環境の維持、向上に努めた。すべての教員に加え、院生だけでなく学生全体に開かれたバーティカルレビューを実施し、特に建築学専攻では、従来から運用してきたポートフォリオシステムが良好に機能した。よって、今後他専攻でも導入に向けて準備を計画する予定である。

III 2020年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関する事】	
1	中期目標	持続的かつ効果的なグローバル化を推進する	
	年度目標	海外プログラムの中止に伴う対応措置について検討を行う	
	達成指標	対応措置の検討結果の共有（教授会）	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	今年度は、予定していた海外プログラムの全てが中止となったため、語学研修などの可能性を探ったが、実現できなかった
		改善策	国内での語学研修など、柔軟な対応措置の検討を引き続き実施していく
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	今年度予定していた海外研修プログラム1（SCI-Arc）及び海外研修プログラム2（ユタ大学）とも中止になったのは、コロナ禍の状況を考慮した場合致し方ないといえる。国内での語学研修などの対応案を模索したことは評価できる。次年度以降もまだしばらくこの状況の続くことが予想されることから、実施形態も含めてカリキュラムの見直しを再度検討する必要がある。
	改善のための提言	カリキュラムの見直しも含めて今後の検討を求める。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関する事】	
2	中期目標	実習をより効果的に行うためのものづくり環境の整備を進める。	
	年度目標	造形製作室の充実とともに利用拡大について検討する	
	達成指標	学部と連携して、効率的な利用実習提携方法について提案する	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	コロナ禍の影響で、利用拡大を十分行えなかった。
		改善策	引き続き、学部と連携して利用実習提携方法について検討していく
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	コロナ禍の影響によって、モノづくりの基本である対面での作業などが大きく制約されたことは致し方ないといえる。ただし、この状況はしばらく続くことが予想されるので、制限された状況下でどのように運営・利用拡大していけるのかを検討する必要がある。
	改善のための提言	制限された状況下での効率的な運用・利用方法を求める。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関する事】	
3	中期目標	学習成果の公表を促進する。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	年度目標	国内外の多くの学会中止に伴い、学生の国内外の発表・公表の場について、その実態と成果の公表の場の調査・把握を行う		
	達成指標	活動実態の把握とその成果の共有（教授会）		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	オンラインによる学会発表を推進し、建築学専攻1件、都市環境デザイン工学専攻18件、システムデザイン専攻5件の論文投稿、学会発表が行われた。	
		改善策	国内外でのオンラインによる学会発表の場をさらに調査し、研究科内で共有するようにする	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	コロナ禍であっても各専攻で積極的に論文投稿、学会発表したことは評価できる。次年度以降、これまでと開催方法が全く異なるオンラインでの学会開催が主流となっていくと予想されることから、学会発表補助なども含めてこれらに対応できるように検討していく必要がある。	
		改善のための提言	当面、大学院生の海外活動は制限を受けると予想されることから、どのように学生のモチベーションを保っていくのかの検討を求める。	
	No	評価基準	学生の受け入れ	
4	中期目標	多様な経験を有する幅広い人材を受け入れるための仕組みづくりを進める。		
	年度目標	留学生の出身国の偏りを是正し、学部と連携して文化圏の多様化を目指した検討を行う		
	達成指標	適切な審査基準、推薦基準の方針の提案を行う		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	学部と連携して多様な文化圏からの入学を推進するための日本語学校指定校の選定を確認した	
		改善策	-	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	多様な文化圏からデザイン工学部に入学を推進していくことは、当研究科に進学する人材の多様化にもつながる。ただし、入学した学生に対して大学院への進学を進めること、大学院からの入学においても同じように多様な文化圏からの入学を推進するための方策を検討していくことが必要である。	
		改善のための提言	当研究科への多様な文化圏からの学生の入学を推進するための検討を求める。	
No	評価基準	教員・教員組織		
5	中期目標	専任教員の配置と、適切な年齢構成への移行		
	年度目標	学部と連携した教員の配置等人事計画の見直しを進める		
	達成指標	学部と連携し研究科の将来を見据えた人事計画の検討を行う		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	学部（研究科）の将来構想を見据えた基盤教育委員会と連携した採用計画を確認した	
		改善策	-	
		質保証委員会による点検・評価		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		所見	基盤教育委員会での将来構想について、研究科として望まれる教員についても積極的に研究科から提案していくことが必要である。	
		改善のための提言	研究科からも大学院教員として求められる人材について提案していくことを求める。	
No	評価基準	学生支援		
6	中期目標		多様な学生に対してその特性に沿った支援を行うため、実態を把握し適正な支援方法を検討する。	
	年度目標		留学生や就学困難者の実態の調査・把握を行うとともに、支援に関する対応方法について検討を行う	
	達成指標		実態の調査結果と対応方法の提案及びその共有（教授会）	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価		A
		理由		調査した結果、日本に入国できていない学生もしくは就学困難者が6名（中国）いたことを確認している。
		改善策		調査結果から、対応が必要な学生が複数名いたことから、これらの学生への対応を検討していく必要がある
		質保証委員会による点検・評価		
所見			次年度以降も入国できないもしくは就学困難者が複数いることが予想されることから、そのような学生への支援及び対応を学部と連携して行っていく必要がある。	
改善のための提言		就学困難者等への支援及び対応を求める。		
No	評価基準	社会連携・社会貢献		
7	中期目標		社会貢献、社会連携を推進加速するため、成果の見える化と窓口の明確化を進める。	
	年度目標		産官学との共同研究等、社会貢献・社会連携の行える場を修士研究等に取り込むための検討を行う	
	達成指標		研究成果のホームページや学協会等への公表	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価		A
		理由		教員や学生の学会等での受賞等の社会貢献や社会連携の成果を、その都度研究科のHPで公開するとともに、教授会で報告を行った
		改善策		—
		質保証委員会による点検・評価		
所見			法政大学のポータルサイトで公開をされているが、その他のトピックスの中に埋もれてしまっているため、学部・研究科のHPにおいて受賞等の社会貢献について別途タグを立てるなどして、より見えやすくする必要がある。	
改善のための提言		HPのトピックスで、社会貢献欄を別途設けるなどして、さらなる見える化を求める。		
【重点目標】				
海外研修プログラムである「海外研修プログラム1（建築学専攻科目）」、「海外研修プログラム2（全専攻共通科目）」、南フィリピン大学での「技術英語演習」の中止に伴う対応措置について検討を行う。				
【目標を達成するための施策等】				

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

海外への論文投稿や国内での英語論文投稿などを学生に促すとともに、次年度への海外研修プログラム参加支援のための検討を行う。

【年度目標達成状況総括】

今年度予定していた海外研修プログラム及び技術英語研修は、新型コロナの影響を受けて全て中止となり、国内での語学研修などの対応案を模索したものの実現まで至らなかった。次年度以降もまだしばらくこの状況の続くことが予想されることから、実施形態も含めてカリキュラムの見直しを再度検討していくとともに、海外研修プログラムに参加しやすい支援方法について検討していく努力を行っていく。

【2020年度目標の達成状況に関する大学評価】

デザイン工学研究科では、概ね2020年度目標を達成している。2020年度はコロナ禍により、予定していた海外プログラムがすべて中止になった点、ものづくりの基本である対面作業が十分に行えなかった点はやむを得ない。しかしながら、教授会執行部や質保証委員会からの提言にもあるように、コロナ禍の状況はしばらく続くと考えられ、限られた環境でも教育の質を落とさないためのカリキュラム改変や、授業・実習の運用方式の工夫などに、継続して取り組むことが望まれる。

IV 2021年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関する事】
1	中期目標	持続的かつ効果的なグローバル化を推進する。
	年度目標	奨学金不足やコロナ対応の理由から、2021年度より新たに各専攻に設置した「海外プログラム研修1」を着実に実施し、大学院教育のグローバル化を推進する。
	達成指標	各専攻で海外あるいは国内で開催される国際ワークショップに1回以上参加する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関する事】
2	中期目標	実習をより効果的に行うためのものづくり環境の整備を進める。
	年度目標	コロナ禍にあっても、モノづくりの基本を教育・学習する上で欠かせない実習・演習の科目は、安全を最大限考慮したうえで対面授業を可能とする環境を整える。
	達成指標	マスクやフェイスシールド、換気など感染症に対する環境対策を講じたうえで、演習・実習授業の70%以上を対面で実施する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関する事】
3	中期目標	学習成果の公表を促進する。
	年度目標	コロナ禍にあっても、本年度も各学会の開催がオンラインで行われることが多いと予想されるなかで、各専攻で積極的に論文投稿、学会発表を奨励し、成果の公表を促す。
	達成指標	研究科全体で大学院生が関わる論文投稿、学会発表の総数が30編以上となるよう公表を促す
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	多様な経験を有する幅広い人材を受け入れるための仕組みづくりを進める。
	年度目標	当研究科への多様な文化圏からの学生の入学を推進するための具体的な検討を始める。
	達成指標	各専攻主任の合議によって、教授会に対し年度末にその方策を公開し、次の中期目標に向けて議論を継続するためのベースを作り出す。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	専任教員の配置と、適切な年齢構成への移行
	年度目標	定年を迎える教員が断続的に発生することから、学部と連携しつつ各専攻にとってもシームレスな新任教員の補充を目標とする。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	達成指標	学部と連携して、3名の新任教員の補充を実施する。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	多様な学生に対してその特性に沿った支援を行うため、実態を把握し適正な支援方法を検討する。
	年度目標	入学できないもしくは就学困難者が複数いることが予想されることから、そのような学生への様々な支援及び対応を学部と連携して行っていく。
	達成指標	年度末の段階で、日本に入学できていない、もしくは就学困難の院生が5名以内になるようにする。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	社会貢献、社会連携を推進加速するため、成果の見える化と窓口の明確化を進める。
	年度目標	教員や学生の学会、コンペ等での受賞の社会貢献や社会連携の成果について、その都度研究科のHPで公開し、当研究科を広くアピールする。
	達成指標	学部・研究科のHPにおいて、受賞等の社会貢献がすぐに把握できるよう別途タグを立てて見えやすくなる工夫をする。
<p>【重点目標】</p> <p>奨学金不足やコロナ対応の理由から、2021年度より新たに各専攻に設置した「海外プログラム研修1」を着実に実施し、大学院教育のグローバル化を推進する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <p>海外あるいは国内で開催される国際ワークショップに参加して、異なる社会環境や風土、価値観をもつグループの中で、英語によるディスカッションをベースとして課題を解決するデザイン能力を養う取り組みを開始し、大学院生に履修の機会が多くなるよう教育内容の工夫を講じた。そこで、まず教員間で情報交換を積極的におこない、院生の参加を促進するために、専攻主任会議や教授会で別途新たに報告の項目として追加し、広く周知することを目標達成のための施策とする。</p>		

【2021年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

デザイン工学研究科における個々の「年度目標」の設定はおおむね適切である。昨年度指摘されていた、「達成指標」の「年度目標」との関連性や具体性について、「国際ワークショップに年1回以上参加」「演習・実習授業の70%以上を対面で実施」「学会発表総数を30編以上とする」と具体的な数値目標が掲げられた点が評価できる。今後は、これらの達成指標がどの程度満たされたかを検証し、その結果を記載することが望まれる。

V 2019年度認証評価指摘事項に対する改善計画報告

No.	種 別	内 容
1	基準	基準1 理念・目的
	指摘区分	概評
	提言（全文）	ただし、社会学研究科とデザイン工学研究科では、「人材の育成に関する目的及び教育研究上の目的」を修士課程、博士後期課程で同一としているため、 <u>課程ごとにこれを定め、公表するよう改善が望まれる。</u>
	大学評価時の状況	大学ホームページでの「大学の教育目標」のデザイン工学研究科の箇所、各専攻において「修士課程」と「博士後期課程」に分けて記述されていない。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	大学評価後の改善状況・改善計画	大学の教育目標のデザイン工学研究科の各専攻の部分で「修士課程」と「博士後期課程」を区分して記述するとともに、学則の改訂について2020年11月を目途に改善していく予定である。 教育目標のデザイン工学研究科の各専攻における「修士課程」と「博士後期課程」を区分して記述し、学則を改訂することで、2020年度中にこのすべてにおいて対応し改善した。
	「大学評価後の改善状況・改善計画」の根拠資料	・デ工研究科履修ガイド 教育目標、海外研修プログラム、カリキュラムポリシー、カリキュラムツリー（添付ファイル） ・大学の教育目標 大学ホームページ https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?gakubueng=ES&t_mode=pc ・大学院学則（添付ファイル）
2	基準	基準4 教育課程・学習成果
	指摘区分	改善課題
	提言（全文）	教育課程の編成・実施方針について、理工学研究科システム理工学専攻（修士課程）では教育課程の編成に関する基本的な考え方が示されておらず、デザイン工学研究科（博士後期課程）と専門職学位課程の法務研究科では、教育課程の実施に関する基本的な考え方が示されていないため、改善が求められる。
	大学評価時の状況	大学ホームページの研究科内の「カリキュラムポリシー」に関する記述において基本的な考え方が示されていない。
	大学評価後の改善状況・改善計画	ホームページの「カリキュラムポリシー」に関する記述における基本的な考え方を示すとともに、履修の手引きも併せて変更を行う。改善時期は、2020年11月を目途に行う。ホームページの「カリキュラムポリシー」に関する記述において基本的な考え方を示すとともに、履修の手引きも併せて変更を行い、2020年度中にこのすべてにおいて対応し改善した。
	「大学評価後の改善状況・改善計画」の根拠資料	・デ工研究科履修ガイド 教育目標、海外研修プログラム、カリキュラムポリシー、カリキュラムツリー（添付ファイル） ・大学の教育目標 大学ホームページ https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/mokuhyo/daigaku_in/#14 ・大学院学則（添付ファイル）

【認証評価結果における指摘事項への対応状況に関する評価】

デザイン工学研究科では、「2019年度大学評価委員会の評価結果」に記された、「教育目標のデザイン工学研究科の各専攻の部分で「修士課程」と「博士後期課程」を区分して記述する」点について、対応がなされ、大学ホームページ「大学の教育目標」に改訂版が掲載された点が評価できる。

また、「教育課程の編成・実施方針」について、デザイン工学研究科（博士後期課程）では、教育課程の実施に関する基本的な考え方が示されていない、と指摘された点についても、対応がなされ、大学ホームページ「教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）」に方針が掲載された点が評価できる。

【大学評価総評】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

デザイン工学研究科は「2019年度大学評価委員会の評価結果」に記された、2019年度認証評価結果における指摘事項について、「大学の教育目標」「教育課程の編成・実施方針」の2点について、対応がなされ、それぞれ、大学ホームページに方針が掲載された点が評価できる。

「達成指標」の「年度目標」との関連性や具体性について、「国際ワークショップに年1回以上参加」「演習・実習授業の70%以上を対面で実施」「学会発表総数を30編以上とする」と具体的な数値目標が掲げられた点が評価できる。

「海外研修プログラム1」を建築学専攻以外の各専攻にも新たに設置したことは、高く評価できる。いっぽう、上記プログラムの実施に必要な費用が学生の負担となっており、引き続き、奨学金や補助金拡充の検討が望まれる。

また、2020年度はコロナ禍により、海外プログラムや対面実習作業が十分に行えなかった点はやむを得ないが、限られた環境でも教育の質を落とさないためのカリキュラム改変や、授業・実習の運用方式の工夫などに、継続して取り組むことが望まれる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。